

第1章 ビジョンの策定にあたって

1 ビジョン策定の背景

- エネルギーは私達の生活や経済活動を支える財であり、その大部分を海外に依存するわが国にとって、エネルギーの安定供給の確保は極めて重要である。一方、エネルギー消費に伴う問題、特に地球温暖化問題への対策として、CO₂などの温室効果ガスの排出量削減が喫緊の課題となっている。
- また近年、中国やインドなどアジア新興国でのエネルギー需要の増加や世界的な人口増によりエネルギー資源確保を巡る国際競争が熾烈化しており、資源エネルギー価格が高騰するなど、エネルギー安全保障に関する関心が高まっている。
- エネルギー自給率を高め、化石燃料消費に伴う温室効果ガス排出を抑制するため、これまでわが国では、準国産エネルギーである原子力発電比率の拡大が重視されてきたが、平成23年3月の東日本大震災及びそれに伴う原発事故を受けて、再生可能エネルギーを含めたエネルギーのベストミックス（最適配分）や省エネルギーの重要性が再認識されたところである。
- 県においては、平成9年3月に「富山県新エネルギービジョン」を策定し、平成15年3月には「富山県における新エネルギーの導入について」としてビジョンを改定し、豊かな自然と高度なものづくり技術を活用して、小水力発電や太陽光発電など再生可能エネルギーの導入促進や技術開発支援等に取り組んできた。しかしながら、上記のような状況を踏まえ、また、同ビジョンの計画期間が平成22年度に終了したことなどから、ここに新たに「富山県再生可能エネルギービジョン」を策定し、再生可能エネルギーの導入目標や導入促進策、エネルギーの効率的な活用の推進策を盛り込むこととした。

2 ビジョンの目的

豊かな県民生活や活発な経済活動を支えるため、再生可能エネルギーの導入促進などエネルギーの多様化や、地域全体の省エネルギー構造への転換などにより、安定したエネルギー需給を実現する。

- 本県では、急流河川など豊かな水資源を活かした水力発電をはじめとする再生可能エネルギーの利用など、環境負荷の少ないエネルギー基盤が形成されており、日本で有数の環境に配慮した「エネルギー先進県」である。
- 豊かな県民生活や経済活動の持続的な成長を実現していくためには、こうした富山県ならではのエネルギー基盤を一層強化するとともに、エネルギーの多様化、効率化をさらに進め、エネルギー需給の安定化を図ることが重要である。

○平成24年4月には、県政の重要課題に的確に対応するとともに、本県の進むべき道筋を明確にし、誰もが将来への夢と希望を持っていきいきと働き、安心して暮らせる富山県を実現するため、県政運営の新たな中長期ビジョンとして「新・元気とやま創造計画」が策定された。

この「新・元気とやま創造計画」において、次世代へつなぐ豊かで快適な環境の保全とエネルギー対策を推進するため「多様化、効率化を通じたエネルギー需給の安定確保」が重要な政策として掲げられており、本ビジョンは、この政策の具体的な取組みの指針等を示すとともに、その目指すべき姿や具体的な目標を定めるものである。

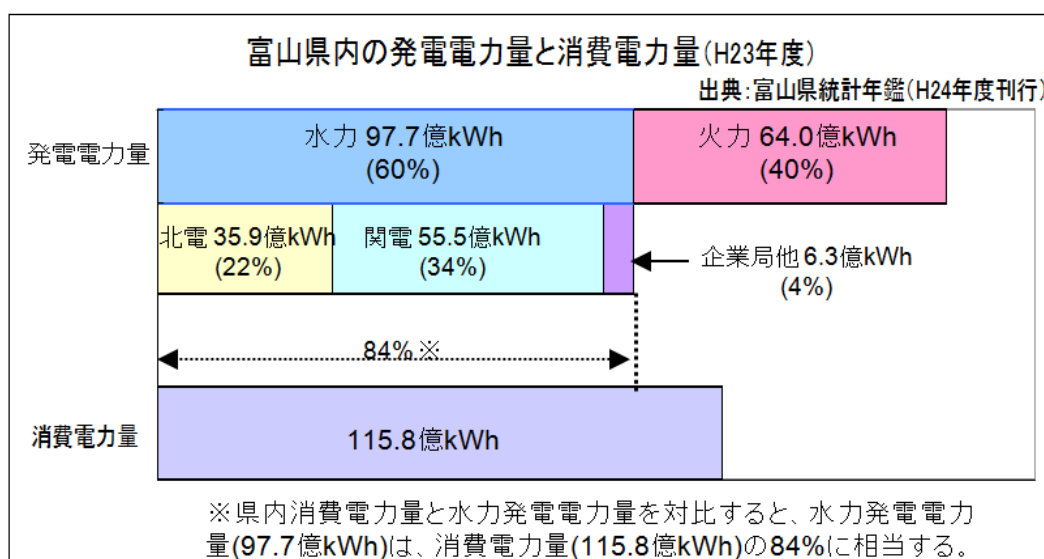


図 富山県内の発電電力量と消費電力量 (平成23年度)

出典: 「富山県統計年鑑」

(出力1,000kw未満、風力発電、太陽光発電は除く。火力にはバイオマスを含む)

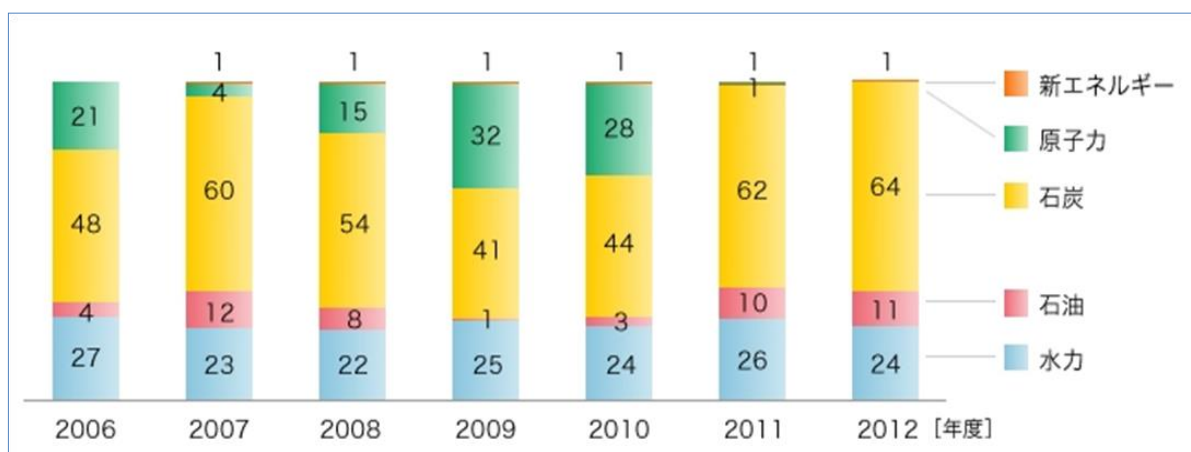


図 北陸電力における発電電力量構成比の推移

出典: 北陸電力(株) 資料

3 計画期間

○平成24年4月に策定された県の総合計画「新・元気とやま創造計画」の目標年次である平成33(2021)年度を、目標年次に設定する。